



2019年7月11日

各 位

上場会社名 リーバイ・ストラウス ジャパン株式会社
代表者名 代表取締役社長 パスカル・センコフ
(コード番号 9836)
問合せ先責任者 経理財務統括部長 古山 信一
(TEL 03-5785-5600)

第2四半期業績予想数値と実績数値との差異に関するお知らせ

2019年1月18日付「平成30年11月期 決算短信」にて公表した2019年11月期 第2四半期累計期間(2018年12月1日～2019年5月31日)の業績予想数値と、本日公表の実績数値に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年11月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異 (2018年12月1日～2019年5月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期 純利益 (百万円)	1株当たり 四半期 純利益(円)
前回発表予想 (A)	7,400	150	150	100	17.28
実績値 (B)	7,871	293	307	274	47.41
増減額 (B-A)	471	143	157	174	
増減率 (%)	6.4	95.3	105.2	174.3	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2018年11月期第2四半期)	7,331	716	724	706	122.06

(注) 当社は、2018年6月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

2. 業績予想数値との差異及び修正の理由

第2四半期累計期間の業績予測数値と実績値との差異の理由については、小売店や当社リーバイストアにおいて新商品を含め定番ボトムスの売上が予測以上に堅調に推移したこと、トップスも

メンズジャケットをはじめ好調に売上が推移したことがあげられます。また、アウトレットにおいて第2四半期において店頭プロモーションが奏功して売上が伸張したことも要因です。

なお、通期の業績予測につきましては、第2四半期累計期間の業績の改善を反映させておりますが、下半期の消費増税の影響や不透明な経済動向による下振れリスクもあり2019年1月18日付「平成30年11月期 決算短信」にて公表の業績予測から変更ございません。

以 上